

ROTARY SANJO SOUTH

国際ロータリー会長：グレンE. エステス（米国）

第2560地区ガバナー：横 山 芳 郎（新潟）

第四分区分会アシスタントガバナー：渡 邊 喜 彦（三条）

会長 石 山 莊 一 幹事 佐々木 常 行 SAA 丸 山 征 夫

三条南ロータリークラブ事務局 三条市旭町2-5-10（三条信用金庫本店内）

TEL：35-3477 FAX：32-7095 e-mail：info@sanjo-minami.jp

2005年5月16日 第1,743回

本年度 第36回例会



ロータリーを祝おう

100年の歩み

2004-2005

【出席率】 会員65名中50名

【先々週出席率】 93.33%

【ゲスト】 （株）野島出版 荒木常能様

【ヴィジター】 長岡東より 伊丹敏彦君

【先週のメークアップ】

5/11 三条RCへ 天田 匡君 馬場一敏君 船久保孝志君 飯山勝義君
西巻克郎君 野島廣一郎君 大久保秀男君 白倉修三君

5/14 越後春日山RC10周年記念式典へ

嘉瀬 修君 丸田肇一君 吉田 衛君

5/15 米山奨学生オリエンテーション（新潟）へ 西野治邦君

【会長挨拶】 石山 莊一 会長

5月3回目の例会になります。本日はまた悲しいお知らせをしなければなりません。

我がメンバーの目黒義雄さんが5月11日午後8時50分に永眠されました。13日、14日と通夜式、葬儀式に参列してまいりましたことをご報告させていただきますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

5月14日は越後春日山ロータリークラブ10周年記念式典に参加する予定でしたが、目黒さんの葬儀に出席の為に欠席させていただきました。



当南クラブからは嘉瀬さん、丸田さん、吉田さんの3名で出席していただき有難うございました。翌日はゴルフを楽しんでこられたと聞いております、羨ましい限りです。嘉瀬さんはゴルフに命を懸けているゴルファーです。良かったですね、スコアはいかがでしたか？

私はこのゴールデンウィークに初孫の顔を見にセントルイスに夫婦で行って来ました。友人達の話で「子供より孫の方が可愛い」と前から聞かされておりましたが、確かに自分の手で抱いてみて、実感として正直感じました。**日本に連れて帰りたい気持ちで、別れる時は少し寂しい気になりました。**

滞在中、せっかくだからと以前お話したことがあります、新潟から肺移植で来ている外山恭平君に会っていかないかという事で連絡を取ってアパートにお邪魔して来ました。本人は大変元気にしており、とても喜んでくれて2時間程話し込んでしまいました。室内には舞の海、北尾、報道関係の色紙が飾られ、恭平君への励ましや勇気を与える言葉がたくさん書かれてあります。彼の病名は難病の突発性間質性肺炎、聞いてみますと彼の体型は通常の同年代の人より体が小さく、子供の肺でないと移植が出来ないということです。日本では子供のドナーの肺移植は禁止のため、アメリカセントルイス子供病院まで行って肺移植をすることに決まったそうです。この病院はアメリカでは2番目に移植症例実績がある病院で、早ければ5月中に、遅くとも6月には手術できる予定とのことです。彼は全国から寄せられた1億円という善意の寄付金のお陰で移植出来る事に大変感謝していると言っておりました。この上は一日も早くドナーが現れ、手術が成功し早くもとの元気な体に戻ることを祈る限りです。恭平君病気に負けずに頑張ってください。来週5月23日の例会は出張の為に申し訳ございませんが欠席させていただきます。

幹 事 報 告

佐々木常行幹事

◎三条北ロータリークラブより 事務局移転のお知らせ

平成17年6月1日より

新住所 三条市本町3-5-25 三条ロイヤルホテル内

TEL 0256-35-7160 (従来通り)

FAX 050-3437-6600 (変更: どの地域からも11桁の番号)

Eメール north@sanjo-nrc.org (従来通り)

※例会日、例会場は従来通り

◎三条北ロータリークラブより (仮称) 三条東ロータリークラブ設立準備委員会 開催のご案内

日 時 6月 6日 (月) 18:00~

会 場 三条ロイヤルホテル

(※ 鈴木武拡大委員出席予定)

ニコニコBOX

～5月16日¥12,000 今年度累計¥1,141,560～

- 石山君 目黒義雄さんのご冥福をお祈り申し上げます。
本日の卓話、荒木常能様、有難うございます。楽しく聞かせていただきます。
- 佐々木君 本日の卓話の荒木常能様 お話楽しみにしております。
- 菫澤喜一郎君 プログラム委員会です。本日の卓話、野島出版の荒木常能様にお願いしました。
荒木様ご苦勞様です。よろしくお願い致します。
- 坪井君 ①目黒先生長い間お世話になりました。
②八幡宮大祭、新しい神殿が完成した上、曜日と天気に恵まれ、今までにない盛り上がりを見せました。本当に良かったと思います。関係者の皆様ご苦勞様でした。
- 住谷君 昨日の三条祭りの行列が雨にたたられず出来て、大勢のお客様に見物していただき本当に良かったと思います。
- 安達君、坂本君、田代君、田中（久）君、田中（悌）君、西野君
BOXに協力致します
- 嘉瀬君 本日、ニコニコBOX担当の方が欠席の為、私が代理を務めました。ご協力有難うございました。

卓 話

「外から見た江戸時代の三条」

（株）野島出版

荒 木 常 能 様



江戸時代後期の学者で、海保青陵（かいほせいりょう）という人がいます。経世家と言われていますが、今で言う経済で世の中の仕組みを研究した人です。

この海保青陵が、一ノ木戸村の庄屋の小林某に招かれて、寛政4、5年（1793、4）ころと、文化元年（1804）の2回訪れており、このときのことが『稽古談』という著書の中に書かれています。

青陵が初めて一ノ木戸村に来たとき、その女たちはみんな「ムスビガミ」でした。あまり手入れをして

いない長い髪をぐるっと結んで手拭をかぶり、着物といえば腰丈くらいしかなく、細い帯をしていたといいます。男は「糞ヲ背ニ負テ往来ス」ですから、汲み取りをしていた人を見たのでしょう。さて、小林庄屋の家では、遠来の学者に対して接待があります。大きな平皿に大根、人参、牛蒡、ナスビ、鮭のキリミなど11種類の料理を入れて、袴を着けた主人が捧げ持ってきて、自ら給仕を行います。青陵先生は驚いて、「御家来ニ仰セ付ケラレイ。筒様ニゴタマゼニ煮テハ、御世話ノ（手間のかかる）コト也」と言いますが、「イヘイヘ（いえいえ）左様ノソマツノコトハナリマセヌ。御遠慮ナク召上ラレテ下サレイ」言われます。

青陵先生が帰るときには、北国街道の弥彦まで、三、四人の「家来」が見送りに行きました。酒屋で上酒一升百十文と書いてあるので、送ってくれた人達に飲ませようと三合ほど買いたいと言いますと、酒屋の主人は驚いて、「そんなに沢山飲むのですか、送り人は何人ですか」と聞きます。人数をいうと「それなら一合でよいでしょう」と酒屋は言う。しかしとても一合では足りないだろう。でも「一合はいくらですか」と聞くと「三十二文です」という。一升百十文で、一合三十二文とすると、勘定は合わない。それでも酒屋は三十二文だという。一合の器をみると六合ほども入る大きさだった。ここで、江戸時代の国によって違った度量衡のことを考えさせられます。（ここでいう国とは、越後国、信濃国などの「国」です。川端康成『雪国』の冒頭、「国境のトンネルを抜けると雪国であったの国境は、「くにざかい」と読みます」

さて、13年経った文化元年、50歳になった青陵は再び小林家を訪れます。そのときのノ木戸村は「昔とは大キニチガフテ、ケシカラヌ奢侈ノ風ニ」なっていました。「女ハ皆髪ヲユウテ、緋縮緬ノ板メノ帯ヲシテ、甚ウルワシフ粧フテ、一向ニ昔シノ越後ニテハナキ也」でした。さらに茶室に通され、薄茶を飲ませられ、食事といえば昔の平皿に11種類を盛り込んだものとは違い、それぞれに分けられた「キレイナル料理」でした。

主人が言うには、米の安いときは貧乏でありそうなものだが、米が高くなって（収入が多くなって）かえって貧乏になった（生活が苦しくなった）。なぜでしょう。これに対して青陵先生は、「米が安くて富、米が高くて貧ということはない。米の安いときは儉約するから道具も買わない。米が高くなって金が手に入ると「ケツコウナルモノカヒ取リタルガ貧ニナル始メ也」と教えます。昔の通りの生活をしていれば今でも金に苦労することはない。しかし、今のように「越後ノ世ガモチアガリテオルユヘ（故）ニ、富ノ字ハ又ヒクヒ処（低い所）ニ流レテユク」から貧になる。ここの続きは、少し長くなりますが現代語訳を試みましょう。

昔は汚い家にうっかり暮らしていたのは、これが分相応だと思っていたからで、気を遣うこともなくうっかりと暮らしていたのである。今、立派な家にうっかりと暮らすのは、これが分相応だと思っているからである。しかし、昔は分相応の家において、経済的に苦しい思いもせずに暮らしていた。今は同じように分相応の家だと思って、苦しみ苦しみ暮らしている。愚かなことである。愚かではあるが、世の中が持ち上がってきたためで、仕方のないことである。自分一人が昔のように暮らそうと思っても、世の中の動きにさわってしまい、人も付き合ってくれなくなるし、世の中のものけものになってしまう。

文化・文政の時代、江戸の文化は華と開きます。その中で生きた人々は、それぞれの経済を苦労して支えていかなければならなかったことが、この文から垣間見られます。現在の私たちの生活にあてはめても、考えさせられるところが多いのではないのでしょうか。

----- 越後春日山RC

創立10周年記念式典 (5月14日 於: ホテルハイマート)-----

【出席者】 嘉瀬修君、丸田肇一君、吉田 衛君 **お忙しい中有難うございました。**



四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか